

Handwritten text in a cursive script, possibly a letter or a list of names, written on a piece of paper with a wavy top edge. The text is oriented vertically and appears to be a list of names or a series of entries.

1711

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, written on a page with a vertical margin line on the right. The text is arranged in approximately 10 horizontal lines.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, written on a page with a vertical margin line on the right. The text is arranged in approximately 10 horizontal lines.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, written on a page with a vertical margin line on the right. The text is arranged in approximately 10 horizontal lines.

Handwritten text at the bottom of the page, possibly a signature or a date.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document. The text is written vertically on the right page of the spread.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document. The text is written vertically on the left page of the spread.

Small handwritten text or signature at the bottom of the left page.

○ 147
夕月の月さきくをまうくをくもふくを
なびのほろ押落まうくをまうくを
まうくをまうくをまうくをまうくを
まうくをまうくをまうくをまうくを
まうくをまうくをまうくをまうくを
まうくをまうくをまうくをまうくを
まうくをまうくをまうくをまうくを
まうくをまうくをまうくをまうくを

○ 148
ううううに蹴やうう押はまうくを
寝く寝くか起てまうくを
まうくをまうくをまうくをまうくを
まうくをまうくをまうくをまうくを
まうくをまうくをまうくをまうくを
まうくをまうくをまうくをまうくを
まうくをまうくをまうくをまうくを
まうくをまうくをまうくをまうくを

とてはるるもつとてなほまゝにとて書留めしとて
とてかゝりしうけ行方よりうけあへりしう
より射しとてまゝにゆきて法に切をまゝに
ゆりたるしとて終くゆきてまゝにゆきてかゝり
ゆきあへりしとて初人しく感へりしとてまゝに
ゆきあへりしとてゆきてまゝにゆきてまゝにゆきて
まゝにゆきてまゝにゆきてまゝにゆきてまゝにゆきて

睦身としてまゝにゆきてまゝにゆきてまゝにゆきて
切く入人教をゆきてまゝにゆきてまゝにゆきて
まゝにゆきてまゝにゆきてまゝにゆきてまゝにゆきて
まゝにゆきてまゝにゆきてまゝにゆきてまゝにゆきて
まゝにゆきてまゝにゆきてまゝにゆきてまゝにゆきて
まゝにゆきてまゝにゆきてまゝにゆきてまゝにゆきて
まゝにゆきてまゝにゆきてまゝにゆきてまゝにゆきて
まゝにゆきてまゝにゆきてまゝにゆきてまゝにゆきて

西へけしつてまゝしつてくちをさして
おくさねしつてまゝしつてくちをさして
しつてまゝしつてまゝしつてくちをさして
しつてまゝしつてまゝしつてくちをさして
しつてまゝしつてまゝしつてくちをさして
しつてまゝしつてまゝしつてくちをさして
しつてまゝしつてまゝしつてくちをさして
しつてまゝしつてまゝしつてくちをさして

きつてまゝしつてまゝしつてくちをさして
しつてまゝしつてまゝしつてくちをさして
しつてまゝしつてまゝしつてくちをさして
しつてまゝしつてまゝしつてくちをさして
しつてまゝしつてまゝしつてくちをさして
しつてまゝしつてまゝしつてくちをさして
しつてまゝしつてまゝしつてくちをさして
しつてまゝしつてまゝしつてくちをさして

字一疼く常敷しあふふあふふ同存集
案をとりしはまゝを志しんふさう物ふりしもの
義はくまう情のち成るね友と義恒如く
成成とさうして居りまふくせふさうを成る
うひ平たひさ生合たると二おそく二人常を
しんを人いけ思ほおまふんを居て下ゆ友
おしんうといはれよういんはる能なるうんく



居くそ曹の傷れあふふまふしんを
二人あしんをうのまふりうる若人の罪は
そやうしは常集のりうふひにかんかひを
一状紙出居るまふまふくは通きて上り人
の歌はてあしんを恒の名ふ天下の形
まふまふのしんをう親のは位牌のまふは
まふまふは後りまふしん

死のうきまゝにふれりて喜ぶやうにせしむ
とむのひよめさうらんくうせうほうはさう思ひけ
やく

勝たふまゝの世業あはれん

んんん

むさし世のきりりんくうせう
いんげん根乃葉かまふん

誠中を採は実取とていんげん根乃葉かまふん
とむのひよめさうらんくうせうほうはさう思ひけ
やく

一口苗十金入るは及最月者ゆわらん
しんげん根乃葉かまふん